

# 中年期の世代性 (Generativity) とレジリエンスとの 関連性について

○浅野みどり

(東亜大学大学院総合学術研究科)

## 目的

Erikson (1950) は、人間の心理社会的発達段階の中年期を世代性 (Generativity) VS. 自己陶醉とし、世代性を“次世代を確立させて導くことへの関心”とした。丸島・有光 (2007) は、世代性 (Generativity) を“成人期全体に通じた個性と関係性への欲求を基本とした創造性、世話、世代継承性への関心および行動”と定義している。

中年期は、生物、心理、社会的に大きな変化を体験する時期である。岡本 (1997) は、中年期には青年期と同様にアイデンティティの危機がおとずれ、再体制化がなされる時期であると述べている。このことから、中年期の世代性を獲得していくためには人生で直面するさまざまな危機を乗り越えていく必要があると考えられる。危機に立ち向かう力としてレジリエンスがある。山口 (2013) は、中高年期に経験する解決や回避が困難な否定的出来事に対処し、そこで得た経験を生かし人生を豊かに過ごすための要因として、中高年のレジリエンス特性を挙げている。以上のことから中年期の発達課題である世代性とレジリエンスとの間には関連性があると考えられる。しかし、先行研究において関連性について検討した研究は少ない。そこで、本研究ではまず中年期の世代性の関心および行動とレジリエンスとの関連性について量的に検討し、次に、中年期の危機と世代性およびレジリエンスの高まりが、世代性の関心および行動とどのように関連しているのかを、半構造化面接により検討することを目的とする。

## 研究 I

**対象者** 中年期 (40~65 歳) の男女 217 名 (男性 95 名, 女性 122 名, 平均年齢男性 50.66, 女性 51.22 歳)

### 使用尺度

- 1) 改訂版世代性関心尺度 3 下位尺度 (20 項目)
- 2) 改訂版世代性行動尺度 3 下位尺度 (23 項目)
- 3) 中高年レジリエンス尺度 3 下位尺度 (23 項目)

### 結果と考察

年齢、性別を制御変数とした偏相関係数を求めた。その結果、世代性関心と世代性行動の因子間全てに弱~比較的高い正の相関が認められた。年齢と各変数との間には相関は認められなかった。このことは世代性を獲得することやレジリエンスの高さは、単に年齢を重ねること以外の個人の生き方や経験などの要因が考えられる。男女別の各変数との相関では性差が示された。男性は「世話」と「ストレス対処力」との間に比較的高い正の相関が認められた。このことから、男性はストレスを対処する力の高まりが周りの世話への関心の高まりと関連していると考えられる。女性は「世代継承性」と「課題解決力」との間に比較的高い正の相関が認められた。女性は危機を乗り越える力の高まりと世代を継承すること

の関心の高まりが関連していると考えられる。また「創造性」および「創造的行為」と「体験共有力」との間には相関は認められなかった。このことから女性は人と異なる自分の内面の創造には第三者と気持ちをつかち合う力を必要としないことが考えられる。重回帰分析の結果では、男女ともに世代性に一番影響を与えていたのはレジリエンスの「課題解決力」で、次が「体験共有力」であった。以上のことから、世代性の関心および行動はレジリエンスと関連性があると考えられる。

## 研究 II

**対象者** 女性 3 名 (研究 I で世代性及びレジリエンスの得点が平均より高かった A さん、B さん 2 名と平均であった C さん 1 名)

**手続き** ライトレイル面接法参考の半構造化面接所要時間 1 人 1 時間半程度 (ライフライン記入含)

**面接内容** ライフラインに記入してもらい、それを辿りながら中年期の転機となった出来事を中心に転機を乗り越える際の変化やその後の世代性への関心および行動について聴いていく。

### 結果と考察

3 人には共通点が見られた。1 つ目は、困難な出来事乗り越える際に辛い経験の中で考え方が変化し、現状をポジティブに捉えることができるようになった点である。2 つ目は、危機を上手く乗り越えるために周りからの支えがあったことである。また研究 II で世代性およびレジリエンス得点が平均より高かった A さん、B さんと平均得点であった C さんとの間には相違点があった。まず、A さん、B さんは、丸島・有光 (2007) の世代性の定義にある社会貢献や社会的責任を果たそうとする“関係性”の欲求と、個としての主体的なあり方を実現する“個性”の欲求が具体的に語られた。一方 C さんは、具体的な欲求についてはあまり語られなかった。

以上のことから、中年期に起こる困難な出来事は周りからの援助を得ながら、次第に捉え方の変化が起こり、レジリエンスが高まることうかがえる。また、レジリエンスと世代性が高まることは世代性に向けた基本的な欲求がより具体的となり、世代性の関心、行動の深まりに繋がると考えられる。

### 総合考察

研究 I では、世代性関心及び行動とレジリエンスとの間には相関が認められ、重回帰分析では、中年期のレジリエンスが世代性に影響を与えていることが示唆された。研究 II のインタビューでは、中年期の転機を乗り越えるプロセスにおいて、危機の捉え方がポジティブに変化することと、人からの支えを得ることの 2 つがレジリエンスが高まることと関連していることがうかがえた。中年期の転機を乗り越え世代性とレジリエンスが高まることで、“個性”と“関係性”への欲求も高まり、更なる世代性の関心、行動に繋がるものと考えられる。